

| | |
|-------------|---|
| 1 審議会名 | マルチメディア情報センター運営審議会 |
| 2 日時 | 平成29年3月27日 午後2時00分から午後4時00分まで |
| 3 会場 | 市役所本庁舎 5階 第3委員会室 |
| 4 出席者 | 高橋進会長、清水貞男副会長、内久根節委員、沓掛瑞穂委員、佐藤宏委員、敦賀由美子委員、西入幸代委員 |
| 5 市側出席者 | 宮川総務部長、清水広報情報課長、佐野広報情報担当係長 吉澤広報情報担当係長、松尾主事、井戸マルチメディア情報センター事業所長 |
| 6 公開・非公開 | 公開 ・ 一部公開 ・ 非公開 |
| 7 傍聴者 | 2人 記者 1人 |
| 8 会議概要作成年月日 | 平成29年3月28日 |

協議事項等

1 開会

2 あいさつ

3 議事

(1) マルチメディア情報センターの機能について

(委員) マルチメディア情報センターの利用者から、センターの今後について不安に思う声や問合せを耳にする。利用者団体等からの意見も聴いて審議することも必要ではないか。

(委員) 利用者団体の意見を取りまとめて事務局に提出しているので目を通してほしい。

(事務局) 前回審議会の報道等がなされた後、メール等の反応もあった。今後のスケジュールとしては、まず有識者の立場から審議会委員の答申を頂くのが第一段階であり、その答申を基に市が対応を検討する際には、利用者の意見等を受け止めて対応するのが次の段階であると考えている。

(委員) この審議会では、ある程度の方向性を出すということか。どの範囲までが答申の内容となると考えればよいのか。

(事務局) 具体的な個々の事業をどうするのかについては、予算や人員体制等を行政が検討して決定していかなければならないため、答申の内容は方向性を示すこととなるが、審議の中では自由に意見や議論を頂きたいと思っている。

(委員) 周辺の大学とマルチメディア情報センターの関連性については、どうとらえればよいか。

(事務局) 大学等における情報関連の人材育成は、それぞれの学内で完結している。まちなかキャンパス等を含めて今後の連携は出てくるかと思うが、それは大学の経営計画や市の支援策と併せて、これから総合的に考えていくことになる。

(委員) これまでの利用者の声を聴いて、そこから方向性を出していきたい。また、マルチメディア情報センターの現在の機能とその継続方法が示されているが、例えばプログラミング教育の必修化に対する教育現場への支援や高齢者向けの支援の要素など、これから先を見越して必要な要素を入れたい。

(委員) これから出てくる新たなテクノロジーなどに対応していくことができる市の戦略が必要ではないか。現在の機能の範囲にとどめてしまわずに方向性を示すことが大事だと思う。

(事務局) マルチメディア情報センターの事業には、現在の場所と施設が無ければできないものと、現在のスタッフや人材でなければできないものがある。施設の維持費に2,500万円、機能の維持費に人件費を含めて5,500万円をかけているが、センターのほとんどの事業は、スタッフのノウハウと働きによってできているものと思っている。施設についてはサーバーのクラウド化等により減量化していく時代背景になっている一方、機能については培われてきたスタッフのノウハウを活用していく必要があるが、先行きの見えない状況では人材の補充もできない状況と

なっており、そこで今回、どうあるべきかということ審議いただいている。

情報教育支援は、教育委員会に専門の指導主事が配置されており、施設利用ではなく学校を回って対応でき、必要とあらば人材と機材を教室等に持ち込めば可能である。

今までマルチメディア情報センターを利用してきた方が、施設の使い勝手が良くて利用したいということであれば、その限られた方たちのために2,500万円という維持費をかけなければならないのか費用対効果について考える必要がある。

新しい技術への対応については、行政はどこまでを担うべきなのか検討の必要がある。先端技術の導入と地域産業への活用研究については、各大学やAREC等の産学官連携機関でも行っており、行政が全ての分野をカバーするのではなく機能分担・役割分担が必要と考える。

- (委員) 前回、上田市以外のマルチメディア情報センターの状況について聞いたが、それらのセンターの場合は、何らかの代替方法で対応していたのか。
- (事務局) 千歳のマルチメディア情報センターは空港の中にあったので本当に無くなってしまったと思うが、それ以外のセンターで建物自体を処分してしまったところはない。運営主体と目的が変わって同様の事業を運営している場所が多いのではないかとと思われる。
- (委員) 人材とノウハウを生かすという部分では、各機能を分散させずに一箇所で対応することが望ましいと思われる。特にネットワークの維持管理は、複数人が管理するべきであるが、現状では人材の補充が難しく、事業団職員の退職によるノウハウの喪失の危険もある。建物については違う観点で考えればよく、若手人材の採用も含めてスタッフを育成し、これまでのノウハウを有効活用し強化していくこともひとつの案ではないかと考える。
- (事務局) 地域振興事業団では、マルチメディア情報センターの事業受託のほか、温泉施設等の管理受託、電算システム業務の受託といったさまざまな事業部署があり、それぞれノウハウを持って動いている。ただし、それぞれの分野では、市の方針が決まらなると事業団としても今後の判断がつかず、人員の補充ができないまま現体制を維持している状況がある。今回マルチメディア情報センターのあり方について答申をいただいた後、市として検討する中では、事業団自体のあり方も平行して考えていく必要もあると考えている。
- (委員) 利用者団体の方々が不安に思っていることが、建物維持の面にあるのか、それとも活動の中で得られてきた技術的支援の維持の面にあるのか、整理して聴いてみてはどうか。
- (委員) 利用者は漠として不安になるのではないかと。場所あるいはノウハウについて、市民に対してどんな支援ができるのかの整理が必要。今はもうどこでも情報関係の作業のできる環境になっているので、どちらかと言えばやはりノウハウではないかと思う。
- (委員) シニア向けに進めてきたパソコン教室の事業があり、高齢化社会の中でのモデルケースになるのではないかとと思われる。そうした交流の場が今後もっと必要とされると思う。
- (委員) 公民館等でパソコン教室を実施していると聞いたが、色々な場所で実施されているのか。これを機会に上田市として一本化して整理できるのではないかと。また、教える内容やレベルに違いがあると思うが、一本化することでさまざまなレベルに対応でき、事業団スタッフの持つノウハウを一段と活かせるのではないかと。
- (会長) さまざまに意見が出たが、これまでセンターが果たしてきた機能、市民向けの現在の取組はこの先も維持するべきというような内容だった。では、誰がどこで維持していくのかということが今後の議論かと思う。資料1の内容に今回の意見を反映させ、事務局の方で次回の資料を作成していただきたい。
- (事務局) これまでの意見を盛り込む形で答申案の叩き台を作成することでよろしければ進めたい。
- (会長) 作成された素案に対しての意見を伺いながら議論を進めたい。
- (委員) センターの機能を大きく4つに分けてまとめられたが、それぞれが相当な量であり多岐にわたっている。その機能を例えば、創造館などの今ある別の場所へ移転することは難しいのではないかと。パソコンひとつあれば済むというものでもないで、機能の受け入れ先についても提示してほしい。また、建物の維持についても、例えばホールを切り離せばどう維持できるのかなども含めて、具体的な数字をある程度試算して出していただければ、費用対効果の問題も含めて議論しやすい。

(2) 施設及び設備について

- (委員) 代替方法で同等設備による施設運営とあるが、他の施設で簡単に手を加えれば利用できるということなのか。
- (事務局) デジタルファクトリーの機能は代替が難しいが、他は何らかの設備投資により可能である。
- (委員) 例えば上田情報ライブラリーでは、ノートパソコンがあるが常設されておらず、セミナーのたびに設置している。また、インターネット、Word や Excel 程度しかできない状況であり、マルチメディア情報センターと同等の環境にするには相当なかさ上げが必要である。
- (事務局) 施設が必ずしも現在の場所でもなくても良いということであれば、次回の審議の際に具体的な対応方法を示したい。
- (委員) 学校教育支援の部分について、教育現場のセキュリティの問題も含めて教育委員会も関連が出てくるかと思うが、どう対応していくのか教えていただきたい。
- (事務局) 基本的には教育委員会の問題として考えなければならない部分ではあるが、教育委員会の考えとしては、総合計画に基づく具体的な計画である上田市教育支援プランを作って進めている。その中で現在、ICT を活用した効果的な授業の推進ということを考えている。こうしたプランの中で、マルチメディア情報センターが持つ機能がどれだけ協力して進めていけるかが今後の課題となると思う。ただし、今回の答申の中では踏み込めない部分と考える。
- (委員) 次回の審議時には、教育委員会にオブザーバー的に参加してもらい、マルチメディア情報センターとの連携等についての考えを聴きたい。
- (委員) 機能を民間委託した場合と、サーバーをクラウド化した場合の実際の費用について、具体的な数字がわかれば参考にしたい。また、各公民館のパソコンについて、台数、OS、インターネット環境などといった大まかな状況を示していただきたい。
- (会長) 次回は答申案の叩き台を元に議論をしたい。

(3) 今後の審議予定等について

- (事務局) 次回審議は5月12日を予定して調整したい。

4 閉会